

# 2016年度 東北大学 前期 英語

## I

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	35分
傾向と対策	設問はそこまで難しくないので、昨年よりも文章量が増えたため大変に感じたのではないだろうか。そのパラグラフの意味や筆者の主張など、全体を意識しながら文章を読解する練習を積んでおくとういだろう。

### 本文訳

私は言語学の博士取得に向けて学ぶため、2004年にロシアからオーストラリアに来た。2002年に1年間オーストラリア国立大学で留学生として過ごしたのちにこの決断をした。(A)2002年に得た経験と知識のおかげで、自国のもので大切なロシアの言語と文化を、以前より自分の専門上の興味を抱いていた言語である英語を通じて研究できるから、オーストラリア留学は理想的なステップになるだろうと確信するようになった。

オーストラリアに来たとき、私は自分を英語漬けにする機会を喜んで受け入れた。それは何年もかけて蓄積した自分の知識を用いて試す機会だったのだ。ロシアの大学で英語を専門的に学んでおり、卒業後は同じ大学で英語を何年か教えていたから、私は自分の英語力がうまく「舵を取る」には十分だと思っていた。しかし、英語を話す環境で生活し、そして異文化コミュニケーションの問題を学ぶことで、よい英語を話し、コミュニケーションを成功させることは正しい文法と語彙を用いるよりはるか上のことを必要とするのだとわかった。

大学の異文化コミュニケーションについての授業に出席することを通じて、英語を理解することの新たな段階がロシア語話者としてのアイデンティティとともに発達した。異なる文化集団における話し言葉の慣習の違いは考え方や世の中の捉え方の違いによって決まる、という考えは私にとって (B) 思いがけない発見 だった。ほかの文化や彼らの規範や会話の慣習について学ぶにつれて、会話の仕方に正しいも間違いもないのだと理解した—ほかの規範はただ違うというだけだ。しかし、人というものは自分がともに育ったものに愛着を育み、そうするとそれらが最良であると考えがちである。いまではこの学びの体験を振り返る機会があるときは、オーストラリアのような多文化社会に新たに訪れる者は皆同じようなプログラムを経験すべきであると私は強く思う。この国だけに一生住み続けており、単一の文化や言語にのみ親しんだ人たちにとってもそれは大いに望ましい。

その授業に出ることでコミュニケーション上の常識の大切さに対する理解も広がったが、最も重要な教訓は自分の経験から学んだ。以前の言葉やコミュニケーションの私の習慣のうちのいくつかは変えるのが簡単だった。前向きに聞こえるようにし、うしろ向きな気持ちを極力表現しないことを身につけた。オーストラリアでは人々が自分の頭痛について不満を述べる人がほとんどいないことに気づいたのだ。一方のロシアではバスや職場、家

庭でそのような不満を耳にすることなく 1 日を過ごすことはできない。ロシアではそれが「不満」だとさえ思わなかった。むしろ生活に不可欠な部分であると考えていた。オーストラリアの人は頭痛になることが少ないのだろうか。そうかもしれない。しかし、彼らは明らかにそれを口に出す頻度が少ないのである。

自分の表現を和らげることを覚えるのはより難しかった。ロシアではやることなすことに、それに含まれる感情を表わすことがよいことであった。<sup>(c)</sup>私の用いた強い表現は時折、沈黙や、難色を示す面持ちで迎えられ、それで私は自分が言い過ぎたのだと理解したものだ。オーストラリア旅行や鑑賞した映画の感想を述べる時、私はその都度実際に感じたことを長々と述べすぎていた。この私の性格はロシア語文化の中では完全に受け入れられるが、自分の感情を説明するときに少ない言葉数で済ませるオーストラリア人の中では普通ではないと受け取られるのだろう。

<sup>(d)</sup>アングロ系の文化における個人的自律という概念を知ってはいたものの（ロシア文化には存在しない概念である）、この見えない境界線に実際に気づくことはとても辛かったし、ときには誤解や損失にもつながった。ロシア語話者として、私はこの概念が柔軟な境界線をもつものであると考えていた。かしこまった場面でそれを想定するのに問題はない。しかし誰もが打ち解けているようであるとき、境界線や儀礼に気を煩わされることがあろうか？ ロシアの文化においてはかしこまった場面ではよそよそしく、極端に礼儀正しくすることが大事である。打ち解けた場面では心を開き、感情を表に出すことが普通だ。オーストラリアの文化を特徴づけるように見えた、気軽にやり取りをするスタイルは、「儀礼」がもはや必要ではないと私に思わせた。ある人への私の親密さや感謝を示したい時、would you や could you といった、不必要な（少なくとも私にはその時そう思えた）英語の「礼儀正しい」言い回しを欠落させはじめ、直接命令を用いようとしたものであったが、その後すぐにそれが不適切であったと気づいたものだ。オーストラリア人の友人にかつて「こっち来てこれ見ろよ」と言ったことがある。彼は動かずに言った、「近い人でない限り、個々の人間にそのような言い方をするな」。「近いとはどれくらいか」と私は尋ねた。「とてもだ」と彼は答える。近いことと、とても近いことの線引きが私にはまったく明確でなかったため、私は二度と率直な命令表現を用いないことに決めた。それでも would you や could you をつけ足すことは面倒に感じるし、自分が幸せな気持ちで、彼らと一緒にいることを楽しんでいると伝えたいとき、そうしたいとは思わない。

また違うときでは、「私と一緒にいるために」（つまり私たちがロシア語で言うところの za kompaniiu）それを行っているのではなく、自分ひとりでそれをやりたいのか、ということを探ね続ける必要性を忘れてしまうことがよくあった。同じように、一緒にいたいということをはっきりさせるために、私の親しい気持ちを伝えようと私が望むことも、英語話者には主体性が欠如している、頼りすぎであるというように受け取られたものだ。ロシア語は英語よりも遥か容易に集団行動の考えを概念化することができるようである。あわせて何人の人が一緒に活動しているかということ述べるのに、1 語だけでよいのだ。vdvoem は「2 人一緒に」、vtroem は「3 人一緒に」、vchetrom は「4 人一緒に」というようにである。ロシア語を話す社会において 1 人でではなく複数人で何かをすることに力点が置かれていることに気づいたのは、もっぱらオーストラリアで暮らしたことを通じてのことだった。

**解説**

(1)

**解答例**

2002 年に得た経験と知識のおかげで、自国のもので大切なロシアの言葉と文化を以前より自分の専門上の興味を抱いていた言語である英語を通じて研究できるから、オーストラリア留学は理想的なステップになるだろうと確信するようになった。

ア The experience and knowledge (I gained in 2002) built up my belief [ that studying in Australia could be an ideal step, because it would allow me to research the Russian language and culture (which are native and dear to me) via English, which had been the language of my professional interest in previous years)].

文構造をとりやすくするために関係代名詞節に括弧をつけ、主節には下線を引いた。さらに小さい文字でア～エと文を区切ることで解説を容易にした。

ア この文全体の主語が the experience and knowledge であり、( ) の部分はこれを修飾している。無生物主語なので、訳すに際しては「～によって」などのようにするとうまくまとまりやすい。これを踏まえて、build up my belief は「確信ができあがった」とするか、少し意識して「確信するようになった」とするのが妥当であろう。

イ that は先行詞を説明する役割をもち、イ以降でアの「確信」の内容が述べられている。ここはそのまま「オーストラリアで学ぶことは理想的なステップになるだろう」でよい。

ウ ここから、「理想的なステップとなる」ことの原因が述べられる。( ) の部分は Russian language and culture を修飾しており、これらが筆者にとって「自国のもので、大切な」ものであると述べられている。via は「を経由して」という前置詞であるが、ここでは「英語を通じて」といった訳が適切だろう。

エ ここは English が筆者にとってどのようなものであったのかについて説明している。of 名詞で意味上は「名詞」の内容がそのまま形容詞化されるというルールがあるが、ここもそうである。professional は「専門的な」という意味がある。おそらく筆者が言語学を専攻したのち、大学で英語を教えていたことを踏まえているのだろう。in previous years は「何年か前から」程度の訳が適当であろう。

(2) **正解は through**

空欄 X は計 4 回登場する。順に見ていこう。

1回目：～ developed (X) attending a university course ～ 空欄前後のおおよその意味は「英語の知識，ロシア人としてのアイデンティティが発達した。(X)大学の授業に出席する」となる。ここで「出席することで～発達した」と予想をつけることができるはずだ。それなら該当する前置詞は by, through 程度であろう。

2回目：go (X) a similar program 空欄前後では筆者が大学で受けた「異文化コミュニケーション」に関する授業の効用が述べられている。ここで筆者は「同じようなプログラムを体験すべき」などといいたいのではないかと推測できるはずだ。go through A で「Aを経験する」といった意味になる。

3回目：～ get (X) a single day without ～ 「ロシア人は頻繁に頭痛などの不満を口にする」という文脈で、「不満を耳にすることなく1日をget (X)することはできない」という意味の文となっている。get through A で「Aを通過する」という意味であり，ここに当てはめれば「1日をやり過ごす」といった意味になる。

4回目：4つの中では最も through に気づきにくいのではないかと。ここまでの3つですでに through が頭に浮かんでいるものとして，4回目は確認してほしい。ここに through を入れると「(that 以下) はオーストラリアでの暮らしを通してである」となる。

以上より，空欄 Xに入るのは through である。

### (3) 正解は discovery

下線部(B) revelation は「暴露，意外な新発見」という意味合いがある。大学受験レベルをやや超えた単語であるから，前後の文脈から予想することが想定されていると見るのが妥当である。

段落の最初の文では「英語の理解の新たな段階」や「ロシア人としてのアイデンティティ」，下線部(B)以降では「気づき」といったものが紹介されているとわかる（本文和訳参照）。そのような文脈から revelation が「新しいもの」といった意味合いなのではないかというような目星をつけておいてほしい。

また，勤のはたらく人は reveal 「明らかにする」と似ていることに気づくかもしれない。revelation は reveal の名詞形なので，ここから意味を推測することができるだろう。

設問より，同義語を本文から抜き出さないといけない。仮に先に述べたような目星がつけられたとしても，同義語を見つけるのに時間がかかっているのはほかの問題の足を引っ張ることになるので，すぐに見つからなかった場合は素直にあと回しにしたほうがよいものとみられる。discovery は Even though I knew about から始まる段落の2段目にある。

## (4) 正解は d

該当箇所の訳は（少し意識を加えると）「この人々は頭痛になるのが（多い・少ない）のか？ そうかもしれない。しかし彼らは明らかにそれを口に出すのが（多い・少ない）のだ。」となる。

この段落ではオーストラリア人はあまり不満を口にしない，ということが述べられている。②に関しては less を選ばないと整合性がとれなくなる。また，オーストラリア人があまり不満を口にしないという事実がみられ，さらに筆者が「ポジティブに聞こえるようにした」と述べていることから，オーストラリア人は不満を（不満があっても）口にしないのだと筆者は考えているのだとわかる。

この考えに対する反論としては「そもそも頭痛になるのが少ないのではないか」という理屈（？）が考えられる。Maybe. But ～ に注目してほしい。「そうかもしれないが，しかし彼らは明らかにそれを口にするのが少ないのだ」という表現で，筆者は自説を強めたいのだとわかるだろう。したがって両方の空欄に less が入る。また maybe というのは「そうかもしれない」という言い回しの中ではかなり確率が低い場合に用いる。ここでの「彼らは頭痛になる頻度が少ないのか？ そうかもしれない」というのは，冗談めいた言い回しだとも考えられる。

「ここ」がロシアを指すのか，あるいはオーストラリアを指すのか。そこで迷ってしまった人もいるかもしれない。実際に「ここ」がオーストラリアであることを明確に示している箇所はないのでなおさらだ。

I noticed that in Australia ～ という文を見てほしい。主節にオーストラリアが，whereas から始まる従属節にロシアがおかれている。この文構造から主従関係を読み取ると，「ここ」がオーストラリアであると考えられる。

## (5)

## 解答例

私の用いた強い表現は時折，沈黙や難色を示す面持ちで迎えられ，それで私は自分が言い過ぎたのだと理解した。

ア The strong expressions (I used) sometimes met with silence and disapproving looks [which would make me understand (that I had said too much)].

下線部はこの文の主部，関係代名詞や that 節にはかっこを施した。これを見ただけで文の構造が理解できた人は構文解釈に関しては問題がないだろう。

ア ( )部は The strong expressions を修飾している。meet with 目的語が「人」の場合は「(アポなどを取って，以前もあったことがある人と) 会う」という意味であるが，目的語が「人」以外のときは「(称賛，避難など) を受ける」などと訳す。disapproving は approve の否定の意味であるから「賛同しない」や「難色を示す」などと訳せばよいだろう。

イ silence and disapproving looks を修飾する関係代名詞節になっている would は，「～したものだ」と過去

の反復的な行動を意味している。無生物主語なので「それで私は～わかったのだ」と訳すと自然な訳になる。そのため、訳し下したほうが自然になる。また( )内の I had said too much は「言い過ぎた」と直訳でも意味は不自然ではない。

(6)

**解答例**

(例 1) きわめて親しい人でない限りは率直な命令表現を避け、丁寧な言い回しを用いるべきである。

(例 2) 物事を行う際は、単独でしたいのか、集団でしたいのか、相手の意志を確認しなくてはならない。

下線部(D)が段落のトピックセンテンスにあること、さらに the notion of personal autonomy というフレーズが初登場であることから、この段落（あるいは、同一の意味段落）でこの notion について説明されるものとみられる。

実際には下線部の段落と At other times の段落で同様の視点から具体例が述べられている。下線部(D)がある段落では「友達に言葉遣いについて注意された」という事件が紹介されている（詳しくは和訳を参照）。そこで筆者は友達に「かなり親しい人でない限りそのような言い方はするな」と言われて率直な命令表現を使わないように心がけるようになったということを、「人格的自律という考え」の具体例としてふさわしい形でまとめると解答例のようになる。

At other times から始まる段落では、第 1 文でほぼそのまま答えになる内容が述べられている。「何かをする際に 1 人ですか、集団ですかの意志を尋ね続ける必要を忘れてしまうことがあった」とある。これも問題で尋ねられていることに適切な形でまとめると、解答例のようになる。

**表現**

dear 「大事な」

immerse oneself in A 「Aに没頭する」

entail A 「Aを含む, 要求する」

conceive A 「Aを捉える, 理解する」

revelation 「新たな事実」

norm 「規範, 常識」

integral 「大事な」

dwell on A 「Aについてだらだらと話す」

autonomy 「自主性, 自治権」

formality 「儀礼, 慣例」

bother about A 「Aについて気をもむ」

reserved 「遠慮がちな, よそよそしい」

fairly 「かなり, まったく」

imperative 「命令法」

overdependence 「過度の依存」

conceptualize A 「Aを概念化する」

readily 「容易に」

(中島匠, 峯岸佑奈)

# 2016 年度 東北大学 前期 英語

## II

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	問いが 4 問しかなく、第 1 問と比べると配点が低いものと思われる。素早い処理をし、できるだけ短い時間で高精度の解答をしなくてはならない。本文は論理展開や論旨がよくまとまっていたので、英文の読み方が板についていれば短時間で読解できたはずである。

### 本文訳

物語を通じて世界を説明するという事は、もちろん新しいものではない。物語や物語を話して聞かせることは科学と同様に人間性にとって重要で、私たちが記録をもつあらゆる文化にはその始まりの物語や道徳を教え込む物語がある。古代の物語に関する私たちの詳細な知識は数千年前、つまり書き言葉の始まりまでにはしか<sup>さかのぼ</sup>ることができないが、人間が物語に魅了されたのはより昔へ遡ると考えるのが妥当だ。4 万年前にまで遡る石刻や洞窟壁画は人間や動物の姿を興味深く混ぜていて、そうした像の裏に物語があったことは想像に難しくない。

物語を探し、作ろうとする性向は、確かに人間の性質に深く根づいた部分である。私たちは目を向ける場所すべてで物語を目にする。(A) 代表的な心理学の実験で、スクリーンの中を動き回る幾何学図形の短いアニメーションについて説明を求められた人々は、あたかも物体が意思をもつ主体であるかのように、図形に意思を認める言葉を用いたのだ。「赤い三角形が青い円形をスクリーンから追い出した」と。

小さな子どもは事実と物語の区別がほとんどつかない世界に生きている。私がこの本を書き始めたとき、私の 4 歳の娘はスーパーヒーローの段階を通過中だった。さまざまなときに、彼女は自分を、ストロングガール、ファストガール、ブレイブガール、スマートガール、ニンジャガール、バタフライガールと名乗った。そしてほぼ毎日、私たちは彼女の英雄的行動がいかにさまざまなバッド・ガイズを阻止したのかという新しい物語を聞いた。いまでは彼女がその時よりは大きくなったので、彼女の話もだんだんと複雑になり、親の楽しみの源としてあてにできるものとなっていった。

物語への興味は世界の動き方への説明にまで拡張される。かなりの量の神話は、気まぐれな、あるいは執念深い神や英雄に自然現象の原因を帰するという、物語を世界に押しつける試みで成り立っている。大気中の空気や水分の動きという観点からの現代科学の説明のほうが大嵐の進路をはるかに効果的に予想できるので、これらの物語は総じて奇妙でほとんど滑稽なものにも見える。それでも実際に天候災害が起こると、(残念なことだが) ほぼ確実に少なくとも 1 人の宗教的原理主義者の指導者が、何かに対する天罰か、そのような何かに原因を帰する。



同様に、現代の迷信はそれより小さな規模で作用する。アメリカの新聞はそれぞれ、毎日星座占いのコラムを設けており、何百万人の人がそれを読み、従っている。あるいは、高度な教育を受けた人が、遠くの惑星の動きがあたかも地球上の偶然の出来事や、他者との交流に何らかの重要な影響をもつかのようふるまう。占星学のようにすでに反証できる考えにさえ頑固にこだわっていることは、偶然の出来事に物語をつけたいたいという人間の欲の強さを示している。

(B) 物語を語ることと神話づくりまでもが、科学の中に 1 部分を築いている。例えば物理学を学ぶときでさえ、ピサの斜塔からガリレオ・ガリレイがおもりを落としたことや、リンゴが自分に落ちてきたときにアイザック・ニュートンは万有引力の法則を考え出したという有名な話を聞くことはほぼ避けられないであろう。もちろん、どちらも文字通りの真実ではない。どちらにも真実の要素はある。ガリレオは軽いものと重いものが同じ速度で落ちることを示すために念入りな実験をしたし、ニュートンはロンドンで起こった伝染病の発生を避ける間に、一家の農場で重力に関していくつかの重要な成果をあげた。しかし、これらの理論についての興味深い具体的な物語はほとんどまったくのフィクションである。それでも、これらは便利だから存続する。それらは物語の中に事実を埋め込むことで、生徒の頭の中に重要な科学的知識を定着させる手助けになる。結びつきのない一連の抽象的な事実や数字はとても覚えづらいが、それらの事実を物語に編み込むことができれば、それらはより覚えやすくなる。塔の中にいたガリレオの話も、リンゴの木の下にいたニュートンの話も、物語の力に頼ることで物理の重要な初期の発想をわかってもらう助けになるのだ（実際に、多くの人はその裏にある科学のほうを忘れたずっと後も物語のほうを覚えている）。

必然的に、成功を収めたあらゆる科学の理論は物語の要素を含んでいる。A という出来事が B という結果につながった、それが C という観察結果を説明する。(C) 科学の中にはあまりにも多くの物語を押しつけてしまいたいという誘惑を拒まなくてはならないことさえある。進化生物学者は何年も、進化は本来的に先進的で、何らかの目標に向かっているものだという考えに陥らないように何年にもわたり奮起してきた。医学、心理学の研究に関する報告で深刻な間違いの 1 つは、2 つの現象が同時に起こりやすいときに、片方がもう片方を引き起こしているに違いないという誤った仮定をしてしまうことだ。「相関関係は因果関係にあらず」が科学者と懐疑者の間のスローガンになるのはもっともなことだ。

### 解説

(1)

### 解答例

代表的な心理学の実験で、スクリーンの中を動き回る幾何学図形の短いアニメーションについて説明を求められた人々は、あたかも対象が意思をもつ主体であるかのように、図形に意思を認める言葉を用いたのだ。「赤い三角形が青い円形をスクリーンから追い出した」と。

In a classic psychology experiment, people [asked to describe a short animation of geometric shapes (moving about a screen)] used language [that attributed intention to the shapes, (as if the objects were

conscious actors: “The red triangle chased the blue circle off the screen.”]

修飾関係を素早く把握したい問題である。people asked とあるが、この間に be 動詞（ここでは were）が無いことにピンとくるだろうか。助動詞が無いので、これは後置修飾のかたまりか述語だ。people は「人々＝被験者」をここでは表す、さらに asked 以下にその目的語となる人が書かれていないことから、ここは形容詞のかたまりと考える。「～と頼まれた人は」となる。また moving about a screen は geometric shapes にかかっている。about は around とほぼ同義の意味合いもあり、ここではその使い方をされている。

used が本文の主節の述語となる。[ ]は language を修飾する部分になっている。as if は「まるで～のように」という意味だが、that attributed intention to the shapes と as if 以下の内容「対象が意思のある主体であるかのように」は内容的に同等であるから、ここは言い換えのように訳し下した。

訳すに際し、以下の部分は日本語のとおりをよくするためにあとに回した。

なお、classic であり、classical ではない点を見落とさないように気をつけてほしい。後者は「古典的な」という意味だが、前者は「代表的な」という意味もある。

## (2) 正解は ②

枠線で囲まれている段落の最初の 1 文は「物語への興味は世界がどのように動いているのかということへの説明にまで拡張される」である。これの直後にもってくるよいののは b である。b は「多数の神話は世界に物語を押し付けようとする試みで成り立っている」といったことを述べており、第 1 文と b は、「物語で世界を説明する」という点で内容の整合性がある。

次に b につながる文を選ぶ。c は「それでも」と始まって「気象災害が起きたときに～原理主義の宗教指導者がそれを何かに対する天罰か何かに原因づけをするだろう」という内容なので、b のあとに続けると唐突で整合性がない。一方、a は「～な現代科学的な説明が～より効率的になるにつれ、これらの物語は総じて奇妙でほとんど滑稽に見える」と述べており、この中の these stories は b の A large chunk of mythology ～ の内容を指していると考えられるので整合性があるといえる。a のあとに c を続けるのは「いまでは滑稽だが→原理主義者がそのようなことを言うこともある」といった流れができ、整合性がある。(b)→(a)→(c)が正解。

## (3)

### 解答例

ガリレオやニュートンの逸話は大いに脚色されているが、それに科学の重要事項を埋め込むことでそれらの事実や数式が覚えやすくなるということ。

下線部(B)はいわゆるトピックセンテンスであり、この段落で述べたいことを端的に述べているのである。したがってこの段落全体の筆者の主張を、このトピックセンテンスにもとづいて端的に記すことが求められている。

段落の前半では「ガリレオのピサの斜塔における実験」や「ニュートンと木から落ちたリンゴ」といった広く

知られた逸話が紹介され、それらが作り話であると述べられた。These persist, though, because they are useful. から始まる後半はそのような作り話の useful な点が述べられている。抽象的でつながりのない事実や数式はとも覚えづらいが、物語にすると覚えやすいというのである。

「逸話が大きい脚色されている」という点と「その逸話のおかげで覚えやすくなる」という 2 点に注意しながらまとめると正解になる。

(4)

**解答例**

進化生物学で進化が何らかの目標に向かって進んでいると考えてしまったり、医学や心理学で相関関係を因果関係とはき違えるという間違いが起きたりするように、科学の中で物語をむやみに用いようとするとうと真実を見誤ってしまうので、それを避けなければならないということ。

「本文に即して具体例を挙げながら」と設問が設定されているので、過度に一般化した解答はしないように気をつけてほしい。

下線部のあとに述べられている例は 2 つある。1 つは「進化生物学者が進化は何らかの目標に向かっていているという考えに陥らないように奮起してきたという例。2 つ目は『相関関係は因果関係でない』の言葉が科学者のスローガンとなっている」という例である。これらは 2 つとも、物語を押しつけようとする気持ちに対抗する努力を指している具体例である。下線部では「ある科学はあまりにも多くの物語を押しつけてしまう誘惑に抵抗しなくてはならない」とあるが、「進化が何かの目標に向かっていていると考えること」も、「相関関係を因果関係とはき違えること」も、どちらも「あまりにも物語を押しつける」例である。

解答例では「物語を押しつけると何がいけないのか」という点まで述べた。そこまで書かなくてももしっかり得点できるはずなので、もう少し簡素な答案でも問題はなかったと思われる。解答例では mistaken assumption という本文の表現に注目し「物語を用いすぎることが誤りを生む」という発想でまとめた。

**表現**

narrative 「物語」

instruction 「指導」

carving 「彫刻」

geometric 「幾何学の」

attribute A to B 「A (性質など) が B にあると考える」

identify oneself as A 「A と名乗る」

carry over to A 「A に及ぶ」

mythology 「神話」

capricious 「気まぐれな」

fundamentalist 「原理主義者」

vengeance 「復讐, かたき討ち」

falsifiable 「反証できる」

correlation 「相関関係」

causation 「因果関係」

(中島匠, 峯岸佑奈)

# 2016 年度 東北大学 前期 英語

## III

出題範囲	長文読解, 自由英作文
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	文章の内容はわかりやすく, 難しい単語も多くないため, 簡単に理解することができるだろう。問1は, 文章中にそのまま合致する箇所があるので探せばよい。問2は, 文章中で言及していない理由を2つ思いつくのが難しかっただろう。

### 本文訳

ジェイソン: やあ, エミリー。君の携帯電話を使ってもいいかな。自分のを家に忘れちゃって, 僕は連絡がつかないことをお母さんに伝えなきゃいけないんだ。

エミリー: もちろん, どうぞ。

(ジェイソンがお母さんに電話する。)

ジェイソン: ありがとう! ところで, 君は一体いつになれば21世紀の仲間入りをしてスマートフォンをもつつもりなんだい?

エミリー: いいえ! あれは本当に時間の無駄よ。私の周りの人はみんないつもあのバカバカしいものばかりじっと見ているのよ。人々はゲームをしているか, もしくは受け取っているソーシャルメディアのメッセージすべてについていこうとしている。身の回りの人に興味がないから, 彼らは他人と直接コミュニケーションをする能力を失いつつあるようにさえ見えるよ。あなたが会話をしようとしているときに, 人々があなたよりもスマートフォンに注意を向けているという経験がきっとあると思うわ。

ジェイソン: そうだね, 君がスマートフォンに対して抱いてることのいくつかは正しいかもしれないけど, 僕は, スマートフォンのおかげで時間を無駄にするよりもむしろ節約できていると思う。図書館に行く必要がなく, 必要な情報のほとんどを自分がどこにしようとしてインターネットから直接得ることができる。僕は教育的なアプリだって使うよ, 時間を無駄にするゲームで遊ぶだけじゃなくてね。

エミリー: アプリが教育的かどうかの問題じゃないの。それでも人は頭をスマートフォンにうずめているじゃない。まさにそれが理由でこの世は危ない場所になりつつあるわ。

ジェイソン: そうだね, その問題に関するスマートフォンやその他の端末の安全な利用に関しては君に完全に賛成だ。人々がルールや常識に従う必要があるのは明白だよ。でも, 君が考えていないであろう

う、スマートフォンを持つことに関するもう 1 つのよい点は、それによって節約できる空間の大きさだ。僕はかつて、携帯電話、デジカメ、音楽プレイヤー、スケジュール帳、ノートパソコン、本を持ち歩いてたけど、いまではこれらすべてを小さくて手ごろな端末ですませることができる。スマートフォンをもてばバッグがどれだけ軽くなるか考えてみなよ。

エミリー：あなたの言いたいことはわかるわ。それでもいいわ。

ジェイソン：わかった！ 諦めるよ。君は過去に生き続けられればいいさ。

### 解説

#### (1) 正解は (2) (3) (5)

##### 選択肢訳

- (1) スマートフォンは高すぎる。
- (2) 人々は他人に面と向かってコミュニケーションする能力を失いつつある。
- (3) 人々はゲームをして時間を無駄にしている。
- (4) より生産的なことをする代わりに、映画を見たり音楽を聴いたりするのはとても簡単だ。
- (5) ソーシャルメディアのメッセージは気を散らせる。
- (6) スマートフォンは人の健康にとって危険かもしれない放射線を出す。
- (7) 人々はニュースやほかの情報をオンラインでしか読まない。
- (8) スマートフォンはとても複雑で、紛らわしい。

(2),(3)はどちらもエミリーの発言内容と合致している。エミリーは直接「ソーシャルメディアのメッセージは気を散らせる」とは言っていないが、エミリーの 2 番目の発言で、「人々は (スマートフォンで) ~ソーシャルメディアから来たメッセージを追いかけてしようとしている」や、「人々が~スマートフォンに注意を向けている」と述べているので、これらを合わせると(5)の内容と一致する。(1),(4),(6),(8)のような話題はまったく出ていない。(7)に関しては、オンラインでの情報収集についてはジェイソンが述べているが、オンラインでしかしないとは書いてないのでこれも誤り。

#### (2)

##### 解答例

(例 1) In my opinion, smartphones can help you save time. For one thing, you can do some shopping wherever you are instead of going to the stores. For another, by using SNS applications, you can contact your friends more easily than by email or by phone.

訳：私の意見では、スマートフォンは時間を節約するのに役立つことができる。1 つに、店に行く代わりにどこにいても買い物ができる。またもう 1 つに、SNS のアプリケーションを使えばメールや電話より簡単に友達と連絡をとることができる。

(例2) I think smartphones waste your time so much. This is partly because there are so many attracting things we can do with them, such as watching movies or listening to music. Another reason is that the amount of information you can get through smartphones is much more than you need, so it will take longer time to find the very information you want.

訳：私は、スマートフォンにより多くの時間が無駄になると思う。その理由の1つは、映画を見たり音楽を聞いたり、あまりに多くの魅力的なことがスマートフォンでできてしまうことだ。ほかの理由としては、スマートフォンを通して得られる情報は必要を<sup>りょうが</sup>凌駕する量であるため、まさに欲しい情報を見つけるのにより長い時間がかかるだろうということがある。

### 問題文訳

スマートフォンが時間を節約するのに役立つのか、時間を浪費させるのか、どちらだと思いますか？ 会話の中で言及されていない理由を少なくとも2つ挙げなさい。

まず、自分の意見がどちらなのかを冒頭で述べ、そのあと、理由を2つ述べればよい。(例1)では、スマホは時間を節約する理由として、ショッピングがいつでも簡単にできることと、SNSで友人とより早く連絡をとることができるという理由を挙げている。(例2)では、スマホは時間を無駄にする理由として、誘惑が多すぎることと、情報が多すぎて逆に見つけにくいことを挙げている。

### 表現

unconcerned 「無関心で」

device 「装置, 端末」

handy 「手元にある」

distracting 「気を散らすような」

emit 「発する」

radiation 「放射線」

hazardous 「危険な」

(井戸雅也, 山藤孝介)

# 2016 年度 東北大学 前期 英語

## IV

出題範囲	和文英訳
難易度	★★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	「うわさの巣窟」など、ところどころ英作文の腕が試されるポイントはあったものの、全体的に訳しやすく、基本を使いこなす能力を問われているようであった。今回出来があまりよくなかった受験生はしっかりと復習し、単語やフレーズなどのボキャブラリーを少しずつ充実させてほしい。

### 解答例

(A)

(例 1) The Internet is sometimes criticized for being a “nest of gossips”, for there are a lot of irresponsible comments and false information. However, when you take account of the feature of the Internet as a media, this way of understanding the internet is not easy to agree with.

(例 2) Some people criticize the Internet as being “filled with gossips”, for there are a lot of irresponsible comments and false information. Yet, considering the characteristics of the Internet as a media, it is difficult to agree with this idea.

(B)

(例 1) As the use of the Internet spreads among people, how information is distributed changes from the previous way based on the mass media, so human relationships and social systems themselves will change.

(例 2) As the use of the Internet is generalized more, the flow of information that used to be centered around mass media changes, and as a result, human relationships and the social structure itself will begin to change.



**解説**

(A)

いくつかの重要ポイントを取り出して考える。

①『うわさの巣窟』

「巣窟」を表す英語として考えられるとすれば、nest があるだろうか。これは、a nest of crime「犯罪の巣窟」などというふうに見えるので、これを用いてもいいだろう。ただ本番、この nest という表現を自信をもって使えるかどうかは定かではない。そのため「巣窟」の言い換え表現を考えてみよう。

インターネット上には匿名の批判や情報源が不確かなうわさが垂れ流されている。そのような様子を「うわさの巣窟」と筆者は読んでいる。要は、うわさがいっぱいなのだ。その意味をくみ取り解答例 2 では be filled with を用いている。

②「～が多いとして」

この日本語はあいまいなので、ちゃんと意味を理解しよう。インターネットのことを「うわさの巣窟」と呼んでいる人たちは、そこに「無責任な発言」や「ウソの情報」がたくさんあるからインターネットを批判しているのだ。つまり、「無責任な発言やウソの情報が多い」ことを根拠として批判している。よってここでの気持ちは「理由」である。「無責任な発言やウソの情報が多いから（と言って）」と、日本語を翻訳すればよい。

それでは、何を用いて理由を表現しようか。because, for, since などが思いつくが、解答例では for を使用した。for は because より因果関係が弱いときに用いる。この文脈では「うわさの巣窟」と呼んでいる根拠の 1 つとして「無責任な発言」などがあるため、because より for のほうが適切かもしれない。ちなみに、since も「～というのは」という形で理由を表せるため、用いてもよいだろう。

③その他

インターネット：the Internet（大文字に注意）。

無責任な発言：irresponsible comments としてもよいが、ちょっと難しいので comments that lack responsibilities などとしてもよい。

ウソの情報：false information など

批判されることがある：「されることがある」のニュアンスを「ときどき」と解釈して the Internet is sometimes criticized としたり、「批判する人もいる」と捉えて some people criticize the Internet としたりするなど、訳出の仕方はいろいろ考えられる。（例 1）では前者、（例 2）では後者を使った。

そう簡単には賛成できない：「そう簡単には～できない」ということはつまり、「～し難い」ということであるので、（例 1）のように is not easy としても、（例 2）のように it is difficult としてもよい。「賛成する」に関しては（例 1）では形容詞 agreeable を、（例 2）では動詞 agree with「～に賛成する」を用いた。

(B)

- ①「インターネットの利用が一般化するにつれ」
- ②「これまでのマスメディアが中心であった情報の流れ方が変わり」
- ③「それによって人間関係や社会の仕組み自体が変化していこう」

の3つの部分に区切って考える。

- ①「インターネットの利用が一般化するにつれ」

「～するにつれて」を訳すところがポイントだが、2つの解答例では接続詞 as の「～するにつれて（比例）」という語法を用いた。

例) As time went on, he was getting tired and hungry. (時間がたつにつれ、彼は疲れ、腹が減ってきた。)

次に、「インターネットの利用が一般化する」という部分だが、「人々の間にインターネットが広がる」という解釈で the Internet spreads among people などとしたり、「インターネットの使用がより一般化するにつれ」と考え、the use of the Internet is generalized more や the use of the Internet gets more common としたりもできるだろう。

- ②「これまでのマスメディアが中心であった情報の流れ方が変わり」

解答例ごとに解釈が大きく違うため、別々に見ていこう。(例1)では「どのように情報が拡散されていくかが、これまでのマスメディアにもとづいた方法から変わる」と大きく日本語の形を変えた。これは、「情報の流れ」を形容する節が多いことから主語が肥大化してしまうという問題を避けた形である。

一方、(例2)では「これまではマスメディア中心となっていた情報の流れが変わる」という直訳に近い形での訳出となっている。「これまでの」は former や previous とすることもできるが、この場合のように「これまでは」とすることで used to be を用いて訳すこともできる。

その他、共通して「中心である」は centered around や based on, 「情報の流れ方」は the flow of information や how information is distributed などが考えられる。

- ③「それによって人間関係や社会の仕組み自体が変化していこう」

「それによって」は接続詞 and や so を使うと簡単だろう。as a result も有用だ。また、「自体」という日本語は単なる強調表現であるが、英語でもこのニュアンスは oneself (ここでは themselves) で表せる。

**表現**

**the Internet** 「インターネット」: 固有名詞扱い。少なくとも受験においてはこの表記で書くことを推奨する。  
時代の流れとしては、インターネットはあまりにも身近なものになっているので、AP 通信は 2016 年 6 月 1 日より、普通名詞 internet として扱うとしている。同じような例で email がある(E-mail → e-mail → email)。

**gossip** 「うわさ」

**false** 「うその」

**take account of A** 「A を考慮に入れる」: take A into account と同義

**feature** 「特徴, 特性」

**media** 「情報伝達手段」: medium の複数形

**agreeable** 「賛同できる, 乗り気で」

(井戸雅也, 山藤孝介)